

H I C 通信



(広島県加計高等学校・日系社会次世代育成研修生たちといっしょに)

目次

P2 加計高校の国際交流

P5 事業報告

交流部

留学生活躍支援センター

P8 新専門相談員の紹介

P9 草の根国際協力基金開催
新国際交流員の紹介

P10 コラム

Hello Hiroshima

イベント・講座案内

Upcoming Event News

P11 JICALレポート

こちら JICA デスク



小田 均校長先生（中央）といっしょに

居ながらにして 国際交流!! Kake High School

本日は広島県山県郡安芸太田町にある県立加計高校にお邪魔しました。

加計高校は全校生徒約100名の県内でも小規模な高校ですが、昨年は全校生徒数を超える100名以上の海外の方が訪れ、生徒主導での交流会やおもてなしを实践されたそうです。また、短期留学生として昨年は8名の生徒をハワイの姉妹校やカナダ、フィリピンの高校に派遣し、海外からは留学生ではなく加計高校を卒業する（編）入学生（現在はベトナムから1名）を受け入れられています。

それ以外にも県内外からの不登校生徒の受け入れや、LGBT対応による制服の自由選択（スラックス、スカートの自由選択）や、中間・期末試験の廃止等、これまでにないユニークで画期的な試みで多様性人材の育成をはじめ様々な成果をあげられています。今後は生徒の世界募集をさらに広げ、欧州や中南米、オセアニア等からの入学の受け入れを調整されているとのこと。

そんな加計高校の生徒の皆さんに国際交流についてお話を聞いてきました。

Q：海外から来校された方々との交流を通して学んだことは何ですか。

○私が学んだことは、国際交流の楽しさと難しさの両面についてです。年間100名を超える海外からの来校がある加計高校に入学して、今まで話すことがなかった国の人たちと交流ができて、国際交流の楽しさを感じることができました。一方で、言葉が通じなくて、自分の思いがうまく伝わったのかなと不安になる時もあり、国際交流の難しさも実感しました。言語、特に英語をもっともっと勉強して国

際交流の楽しさを増していけるようになりたいと思いました。（2年生 池野）

○コミュニケーションの取り方の違いを学びました。私たちのおもてなしに対して、海外から来られた方々はオーバーすぎると思うぐらいの反応をしてくださいました。結果、私たちが心地よくスムーズに活動を進めることができました。相手の行動に対して、相手の気持ちを慮る反応をすることがコミュニケーションには大切なのだと思うことができました。（2年生 小田）

○多様性について少し実感することができたと思います。相手を分かってとすることが大切だということを学びました。海外の方々は、育った場所や環境が全く違うので、価値観やものの考え方も全く違うと思います。違うということを認識して、自分が思っていることを押し付けるのではなく、相手はどう思っているのかを分かってとすることが大切だと思いました。（2年生 中森）

Q：海外から来校された方々との交流で、一番印象に残っていることは何ですか。

○日系社会次世代育成研修生の方々と全校生徒で貨物列車というゲームをしたことです。言葉を超えてみんなが笑顔で楽しむことができました。ゲームの途中で一体感が生まれました。全校生徒でおもてなしをしているからこそ、こういった空間が生まれたのだと思いました。（2年生 池野）

○姉妹校の生徒に文化祭で茶道を体験してもらいました。抹茶が「熱くて苦い」と言われましたが、これが日本独自の味でまさに日本の文化なのだを教えてあげた時、興味深く聞いてくれたことが一番印象に残っています。今後海外へ行く機会があれば、日本の茶道や浴衣、所作などを伝えていきたいなと思いました。（2年生 小田）

Q：海外から来校された方々との交流を通して、「自分が変わったな」と思ったことを具体的に教えてください。

○積極的になったことです。何度も交流を続けていくうちに「もっと話してみたい」「もっと仲良くなりたい」と思うようになり、自分から積極的に話しかけていくようになりました。（2年生 池野）

○物事に対する見方、考え方、楽しみ方が変わったと思います。幅広い視野で考え、行動することができるようになりました。オーバーアクションもできるようになりました（笑）。もっと会話をしたいという気持ちが強くなり、英語の勉強をさらに頑張っています。（2年生 小田）

Q：日本と違うなと思ったことは何ですか。

○来校される皆さんがフレンドリーだなと思いました。私は初対面だと緊張していましたが、例えば、ハワイの姉妹校の生徒たちは「アローハ」と指のジェスチャーを交えて笑顔で会話を始められるなど、すぐに打ち解けることができました。（2年生 田淵）

Q：日本の文化や習慣等で、海外の方々に伝えることができたことや、これから伝えていきたいと思うことは何ですか。

○お花見やお正月、盆踊りなど日本の年間行事につ

いて英語で伝えることができました。皆さんに興味を持って聞いてもらえてうれしかったです。（2年生 田淵）

○日本の挨拶、礼儀について伝えることができました。いっしょに昼食を食べた時に、「いただきます」や「ごちそうさまでした」を当たり前にしていたら、「なんて言っているの?」と興味を持って質問されました。その時も日本の良い文化を説明することができ、これからは日本の誇れるマナーや礼儀についてももっともっと伝えていきたいです。（2年生 中森）

Q：その他、自由に感想等を教えてください。

○加計高校に居ながら国際交流ができるというのは、本当に貴重な経験をする事ができ魅力的です。加計高校での国際交流を通して経験したことは、将来社会に出てからの強みになると思います。今年も昨年以上に深い交流を図り、どんどんコミュニケーション力をつけていきたいです。（2年生 池野）

○加計高校は、少子高齢化が進んでいる町の小さな高校ですが、海外の方々とたくさんの交流ができます。グローバルな社会である今日、多様性を身につけるには加計高校は最適な学びの場であると思います。（2年生 小田）

○加計高校はハワイのホノカア高校、韓国のソラック高校と姉妹校提携を結んでいます。他にも多くの国々からの来校があります。海外の方々と校内で交流ができます。また、同窓会の支援により姉妹校へ留学するチャンスもあります。加計高校に来て本当によかったと思います。（2年生 田淵）

○加計高校は、日本に居ながらにしてたくさんの国の方々と交流ができてすごい学校だなと思っています。同じ年齢の人たちと交流する中で、同じ年齢でもこんなに違うのかという場面が多々あり、多様性を実感することができました。（2年生 中森）



左から小田 愛芽さん、中森 実咲さん、池野 春菜さん、田淵 柚香さん

(ハワイ留学組)

Q：ハワイへの留学を通して学んだことは何ですか。

- 今住んでいる場所だけでは学ぶことができない多様性を学ぶことができました。(2年生 大倉)
- 自分から挨拶をしたり、話しかけたりすることで積極性を身に付けることができました。(2年生 大倉)

Q：ハワイへの留学で、一番印象に残っていることは何ですか。

- ホームステイです。英語がうまく通じなくて、ホストファミリーとコミュニケーションを取るの簡単ではなかったです。でも「伝えよう」という強い思いを持って話中で、自分の思いが伝わった時にはとてもうれしくて「楽しい!」という気持ちになりました。(2年生 大倉)
- 言葉が通じなくて困ったことがたくさんありました。しかし、言葉ではなく自分の思いを通じさせることが大切なんだということを学んだことです。(2年生 東)

Q：ハワイへの留学を通して、「自分が変わったな」と思ったことを具体的に教えてください。

- 海外から加計高校に来られる方々に丁寧に説明できるように、日本や自分の住んでいる町のことを今まで以上に知りたいと思うようになりました。そのために地域のボランティア活動にこれまで以上に積極的に参加するようになりました。(2年生 大倉)
- 姉妹校のホノカア高校の授業では、自分の意見や考えを積極的に発言する生徒がたくさんいました。その生徒たちに影響を受け、帰国後、失敗を恐れずにいろいろなことにチャレンジしていくことができるようになりました。(2年生 東)

Q：ホノカア高校の生徒に関して、日本と違うなと思ったことは何ですか。

- 自分の限界や固定観念にとらわれず、自分の視野を広げ未来への可能性を広げている生徒がたくさんいました。また、自分の将来の夢を、自信を持って話している姿に感動しました。私もそうなれるよう努力をしないとけないなと思いました。固定観念にとらわれない加計高校だからこそ、色々なチャレンジができると思います。(2年生 東)



左から大倉 芽依さん、レ・ミン・チーさん、東 ゆりさん

(ベトナムからの留学生さんのインタビュー)

Q：日本の印象はどうか。

- 日本はいい国だという印象です。いろいろと便利なものがあります。例えば、自動販売機はベトナムにはありません。とても便利で、私はたくさん買っています。

Q：ベトナムと違うことは何ですか。

- 日本は礼儀が大切だということです。例えば、日本ではご飯を食べる時に「いただきます」と言いますが、ベトナムでは言いません。日本人たちはとても礼儀正しいと思いました。

Q：日本の食べ物で一番好きなものは何ですか。

- ラーメンです。

Q：安芸太田町以外で行ったところはどこですか。また、その印象は？

- 広島市の平和公園です。とても広くて、きれいでした。

Q：一番好きな科目は何ですか。

- 数学です。

Q：加計高校に入学して一番良かったことは何ですか。

- 一番良かったことは、初めて部活をしたことです。部活で私は本当に頑張りました。一番楽しかったことは、みんなと練習をしたことです。試合でサーブを決めて、いっぱい点を取り勝ちました。とてもうれしかったです。これからの目標はもっと上手になりたいです。



交流部

Report 1 能楽鑑賞会を開催

5月27日(月)、日本文化理解促進事業の一環として「能楽鑑賞会」を開催しました。この企画は、(公財)ひろしん文化財団主催の「第29回青少年のための能楽鑑賞教室」にご招待いただき、毎年参加しているものです。今年も、広島県に在住の外国人及び日本人のグループ、広島県内の大学生等、9か国 計40名の方々と一緒に、能「土蜘蛛」と狂言「呼声」を鑑賞しました。

外国人の皆さんは、〈無〉の空間を表現した舞台に際立つ能装飾の絢爛さ、会場に轟く笛・小鼓・太鼓の音色と謡に引き込まれ、言葉は理解できなくても、全身で日本文化の究極の「美」を感じ取り、舞台に陶酔された様子でした。

参加者からは、「演者の真剣な演技と迫力ある音楽に感動しました」「衣装や演出も豪華で、美しく、引き込まれました」「能楽を見るのは初めてでしたが、日本文化の素晴らしさを感じました」等のうれしいお言葉をいただき、日本文化の魅力を発見するきっかけになった方も多かったようです。

今後もひろしま国際センターでは、外国人の皆さんと一緒に楽しめるイベントを随時開催していきます。



交流部

Report 2 グローバルキャリアセミナー(第1回)を開催しました

6月7日(金)に、グローバルキャリアセミナーを開催し、高校生・大学生等45名が参加しました。本セミナーは、県内の中・高生や大学生を対象に、海外での仕事経験がある講師が国際関係の仕事の紹介をし、広島から世界の懸け橋となる人材の育成支援を目的としたセミナーです。今回は、「アフリカで得たもの～マゴソスクールのこと、スラムのこと」というタイトルで、マゴソスクール代表の早川千晶様にご経験について講演していただきました。

ケニア在住31年の早川さんからの講演は、「日々を生き抜く為の一生懸命さ」や、「ケニアの方々の物を創り出すスペシャリストであること」等、私たちが日本にいと気づかないことばかりで、日本がどのような恵まれた国であるかを感じることができる内容でありました。

今回の講演で、受講生より実際にアフリカに行ってみようといった声も聴け、学んだ一つ一つのことが、良い経験になったのではないかと思います。次回は、8月21日(水)を予定していますので、詳細はひろしま国際センターのホームページでご確認ください。皆さんのご参加をお待ちしています。



交流部

Report 3 「ルワンダ内戦を語る～ルワンダ国民的歌手 祈りの歌～」を開催

6月6日(木)、広島市西区民文化センターにおいて、「ルワンダ内戦を語る～ルワンダ国民的歌手 祈りの歌～」をひろしまグローバルプラットフォームソトカラとともに開催しました。25年前に起こったルワンダの内戦(ジェノサイド)について、実際に内戦を経験した、NPOルワンダの教育を考える会の理事長 永遠瑠マリールイズさんと、ルワンダの国民的歌手 Mani Martin (マニ・マーティン) さんのふたりが自身の体験を語りました。

マリールイズさんは、「平和」であることの意味、自身と日本を繋げてくれた人と人との出会いの大切さを語り、マニ・マーティンさんは、孤児院での孤独な生活、自分を救ってくれた音楽との出会いについて、涙をこらえながら語られました。ふたりからは、ルワンダと同じ悲しい歴史を持つ、ここ「広島」に対して特別な思いを持っていることについても語られました。

後半は、きくちまゆさんのピアノ、狩谷美穂さんのフルートの伴奏で、マニ・マーティンさんが平和への願いを込めた歌を4曲披露しました。その力強く、思いのこもった歌声に会場の誰もが胸を打たれ、大きな拍手がいつまでも鳴りやまず、会場全体が感動に包まれていました。



交流部

Report 4 県内文化施設等優待カード・HiCISメンバーズカード

留学生の皆さん！

日本や広島への文化・芸術への理解を深めてもらうため、県内の文化施設等の入場料などが無料（もしくは割引）される優待カードを発行しています♪



お申込はこちらのQRコードから

■カード特典

- ・広島県内の文化施設（美術館・博物館・水族館・神社・資料館）の入場料が、無料（一部は割引料金）で利用できます！
- ・広島県留生活躍支援センターのイベント情報が、メールマガジンで配信されます！
(配信を希望するかどうかは、申し込み時に選択可能です。)

■申込対象者

- ・広島県の大学・高等専門学校・日本語学校に通う留学生



交流部

Report 5 「ラマダン1日(断食)体験」に参加しました



6月1日(土)18時から広島イスラム文化センター(東広島市)で、ラマダン1日体験をひろしまジン大学ほかとともに開催しました。ラマダンとは、イスラム教徒(ムスリム)が行う約1ヶ月間断食のことで、日の出から日没までの間の飲食を一切断ち、主神アッラーへの感謝をささげる神聖な行事です。今回は、広島イスラム文化センター代表理事であるバセムさんの説明のもと、礼拝所、図書室など施設内の見学をさせていただきました。

また、実際に、東広島市在住のイスラム教徒の方々と一緒にデザート(ナツメヤシの実)とジュースをいただき、4回目のお祈りの時間(マグリブ)に礼拝を見学してもらいました。礼拝後は、イフタル(ラマダン日没後の最初の食事)をみんなで食べながら、イスラム教徒の方々と交流を楽しみました。

ラマダン以外にも、基本的なイスラム教の教えや食事など、普段の生活にまつわることについても質問に答えていただき、参加者からは、「イスラム教について少し理解ができ、貴重な体験ができた」「このイベントに参加してイスラムについての見方が変わった」などの感想がありました。

留生活躍支援センター

Report 6 外国人留学生合同企業説明会を開催します

7月12日(金)の13時から16時30分に、日本での就職を希望する外国人留学生を対象とした合同企業説明会を広島市留学生会館で開催します。出展企業数は約30社を予定しています。参加対象学生は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校・専修学校を卒業予定の外国人留学生(既卒者含む)になりますので、日本での就職を考えている留学生の皆様には絶好の機会かと思えます。入場無料で入退場も自由です。各社のブースを回り、採用担当者のお話を聞くことができます。

多数の方のご参加をいただきますようご案内申し上げます。また、当日は福山駅、西条駅より無料送迎バスを運行しますので、ご利用ください。(事前申込制)



留生活躍支援センター

Report 7 外国人留学生インターンシップ受入企業を募集しています。

外国人留学生をインターンシップ生として、受入れていただける企業を募集しております。実施時期は、夏休みなどの長期休暇を中心として通年でいきます。

留学生の採用を検討中の企業の皆様、ぜひお申し込みください。

対象企業：留学生の採用実績がある又は採用予定のある企業
参加留学生：日本語能力試験N2程度以上の能力を有する留学生。

実施コース：就業体験コース(5日～2週間程度)、
1dayインターンシップコース(1日または半日)
企業見学ツアーコース
(2～3時間程度。バスで1日2社程度訪問)

インターンシップの流れ：



申込方法：WEBサイトから

><https://bit.ly/2K8ks19>



こちらのQRコードから

留生活躍支援センター

Report 8 広島留学動画コンテストを開催しています。

留学生の皆さん！広島での留学体験を動画でシェア(発信)しませんか？外国人留学生による広島留学動画コンテストを開催しています！

広島に留学を考えている人、留学を始めたばかりの人へ、広島での生活に役立つ情報や、広島留学の魅力について発信する動画を投稿してください。優秀な作品には賞金も♪

皆さんの応募をお待ちしています！



(2018年度の授賞式風景)



募集テーマ

- 私の学校の魅力 ●私が住む市町・地域の魅力 ●留学して最初に困ったこと、解決方法
- これから広島に留学する人へのアドバイス ●私だけが知っている広島のいいところ

締切 2019年11月30日(土)
応募資格 県内に住んでいる外国人留学生
賞金 最優秀賞：5万円(1作品)、優秀賞：3万円(1作品)、佳作：1万円(5作品)



詳しくは詳細ページをご覧ください
→ <https://bit.ly/2wgh1MS>

留生活躍支援センター

Report 9 留学生による伝えるHIROSHIMAプロジェクトを開催します。

県外の留学生を招き、広島の平和について学び、文化や歴史について触れてもらう「留学生による伝えるHIROSHIMAプロジェクト」を今年度も開催いたします。例年3月に開催しておりましたが、今年は8月28日(水)～8月30日(金)の3日間で開催いたします。(募集チラシについては、6月初旬に全国の日本語学校、大学、国際交流協会宛てに先月送付させていただきました。)

広島県内の大学に在籍する学生もボランティアとして参加し、3日間という短い時間ではありますが、全国の留学生と一緒に広島について学びます。

開催後は、HIC通信にて報告をさせていただきますので、ぜひご覧ください。

開催日：2019年8月28日(水)～8月30日(金)
定員：50名程度
参加費：8,000円

募集締切り：7月8日(月)
プログラム：平和記念資料館見学、平和公園フィールドワーク、被爆体験講和、お好み焼き体験など



留学生活支援センター

Report 10 2019年度 ひろしま留学大使が決まりました!

5月26日(日)に、ひろしま留学大使の任命式を行いました。

今年度も多数応募があり、異文化交流に意欲的な留学生がたくさん集まりました! 広島県内の11の学校、11の国・地域で構成された留学生48名で1年間活動します。

大使が実際に住んでみて感じた広島の魅力や、経験から得た生活情報、学生生活についてSNSを通し世界中へ発信していきます!

また、留学生や地域住民との交流イベントへ参加し、サポートスタッフとしても活動してもらいます。活動を通して異文化理解を深め、充実した留学生活を送ってほしい、そして広島の魅力をたくさん発見してほしいと願っています!

大使の投稿は、「ひろしま留学大使」のFacebookに順次アップしていきますので、ぜひご覧ください。みなさんからの「いいね!」をお待ちしています!

今後の大使の活動、SNSでの発信にご期待下さい!

ひろしま留学大使

Facebook: <https://www.facebook.com/hsaa2014>
 ウェブサイト: <https://hsaa-studyabroad.jimdo.com/>




← facebook ← ウェブサイト



草の根国際協力助成金の交付団体が決定しました。

県民や企業等の皆様からの寄付や「ピース・アーチ・ひろしま」プロジェクトの収益からの寄付を原資とする草の根国際協力助成金は、2019年度は9団体に対し、合計5,703,400円を交付します。

【2019年度採択団体】

団体名	内容
育成事業 インドチャイ倶楽部ひろしま	インド・バンガロール市の中学生を広島に招き、広島の中高生や地元住民との交流による国際理解の促進事業
特定非営利活動法人ESA	ミャンマーの学校におけるトイレの劣化・不足を解消するため、トイレ・浄化槽の建設事業
特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン	東ティモールの産業振興のため、コーヒーの品質管理体制強化による生産者の支援事業
わらうすがた	カンボジアの体育教育向上のため、現地での体育講習会の開催、現地教員の教材開発のサポート事業
特定非営利活動法人 ベトナム友の会ーヒロシマ	ホーチミン市内の小学校への図書・教材等の贈呈や、図書・作文を通じ現地と広島市内小学校の交流を通じた教育活動支援事業
特定非営利活動法人 LiTA	スリランカの森林保全と環境意識向上のため、植林、育林活動、環境教育活動、セミナーの実施事業
特定非営利活動法人 広島フィリピン友好協会	フィリピンの不就業児童に、広島市民、小中学校児童生徒から提供を受けた文具等を送る教育支援活動事業
特定非営利活動法人 NGOひろしま	カンボジアにおいて、健診、健康教育、スポーツ・絵画指導の実施、孤児院に併設した農園経営事業
広島経済大学興動館 カンボジア国際交流プロジェクト	カンボジアにおいて、広島とポーランドの大学生の連携による両国の戦後復興の紹介の教材開発・作成による教育支援活動事業

HIC 医療通訳ボランティア派遣事業の実施状況

利用できる医療機関 (HICのHP掲載)	県立広島病院 (広島市南区), 広島赤十字・原爆病院 (広島市中区), JA広島総合病院 (廿日市市)					
派遣実績 (2019年5月末現在)	英語	中国語	ベトナム語	タガログ語	スペイン語	計
	11	0	5	2	3	21 (単位: 件)

新しい 専門相談員紹介

4月27日(土)より新しい専門相談員を迎えて、相談日を毎週木曜日、土曜日の2日間に拡張しました。さらに対応語学も、これまでの英語、タガログ語、韓国語に加えて、ベトナム語や中国語での相談対応も拡充しました。外国人の方の相談をお待ちしています。

また、これ以外にポルトガル語、インドネシア語、タイ語、スペイン語、ネパール語でも通訳を介して相談ができます。



木曜日のメンバー



土曜日のメンバー

新しい 国際交流員紹介

許笑熙 (ホ・ソヒ) さん (韓国出身)

アンニョンハセヨ! はじめまして。韓国から参りました。許笑熙(ホ・ソヒ)と申します。

今年4月から広島県国際課で、国際交流員(CIR)として勤めることになりました。

広島市と姉妹都市提携を結んでいる大邱(テグ) 広域市出身です。大邱(テグ)市は韓国で一番暑い都市として知られています。大邱(テグ)の暑さに負けない情熱を持って、日本と韓国を結ぶ架け橋として、交流を深めるよう精一杯頑張りたいと思います。

高校時代J-POPが好きで日本語の勉強を始めました。日本についてもっと知りたいと思い、大学で副専攻として日本学を勉強しました。特に日本の地理と風土に興味を持っていて、国際交流員としている間、日本の47都道府県を回ってみたいと思います。15年前、J-POPが大好きだった私に「あなたは将来、国際交流員になって、広島に住むようになる」と言っても、信じてもらえないと思います。このように、人の人生に大きな影響を与える文化の力は素晴らしいだと信じています。

私は広島県の皆さんに韓国をみる「窓」になりたいと思います。特に韓国の料理とK-POPが好きです。興味がある方はいつでも声をかけてください。そして、まだ知られていない広島のいろいろな魅力を韓国に紹介したいと思います。広島の絶景な場所、美味しいお店も行ってみたいと思いますので、ぜひ私に皆さんの穴場を紹介してください。

私は「人と人とのつながり」という言葉が好きです。つながることで、お互いを理解、尊重し、思い出を共有し合うことができます。韓国の「窓」という使命感を持って国際交流の活動に取り組んで、私がか大切にしている「人と人とのつながり」を築いていきたいです。そして、これから国際交流員の仕事を通じて出会う、数え切れないほどの素晴らしい絆を、大切に国際交流員になりたいです。

皆様のご指導・ご鞭撻、ならびにご協力お願い申し上げます。よろしくお願致します。



Hello Hiroshima

Vol.105 July 2019



Hello Reiwa,
Goodbye Hiroshima
Daniel Mackey

As you know, Japan ushered in the new "Reiwa" era from the start of May this year. I'm glad that I was able to be present on such a historic occasion seeing as I will be leaving Japan for good at the end of July. So, in a sense, it is a well-timed way to mark my own departure after having spent three eventful years living and working in Hiroshima. Though I will be stepping down and going home at the end of July, my successor will take on the mantle and is sure to bring many fresh new ideas to the table.

I've heard that some people question the importance of maintaining an era name along with the western calendar system, but I think that the era name is particularly good at evoking certain feelings, memories, and ideas or events of significance that are tied to that specific era. If Japan were to get rid of the era name system, an intrinsic piece of its culture would be lost forever.

Upon reflection, all of my time spent in Japan till now was during the Heisei period so I have no frame of comparison, but I will

always treasure my fondest memories from this era that include my first stay in Japan as an overseas student studying at Fukuoka University of Education and my first job in Japan working for the prefectural government of Kagoshima. It was these kinds of formative experiences that motivated me to return to Japan many years later and come work in Hiroshima.

Here, I learned more than ever about the importance of peace and the tireless efforts being undertaken by Hiroshima to hasten the momentum toward abolishing nuclear weapons. I hope that Hiroshima's harrowing experience of the a-bomb and its swift recovery will continue to serve as a symbol of hope to other countries around the world in the days ahead. At a time when relations between the major powers are tense and uncertainty clouds the future, I believe that the message of peace promulgated by Hiroshima is more important than ever.

To conclude my final post, I would like to extend my best wishes to the people of Hiroshima, express my gratitude to everyone who supported me during my stay here, and offer a prayer for the continued safety, stability and prosperity of Japan.

Till we meet again!

Upcoming Event News

ユニセフ夏休み上映会「少女は自転車にのって」& ユニセフ・パネル展

女性の一人歩きや最近まで車の運転が禁じられているなど、厳しい慣習を重んじるイスラム社会の中で前向きに生きようとするサウジアラビアの少女を通して、ジェンダー平等について考えます。

- 日 パネル展:7月17日(水)~20日(土), 上映会:7月20日(土)
- 日 パネル展:10:00~20:00(最終日16:30まで)
- 上映会:①10:30~ ②14:00~(2回上映) 定 各回169名
- 日 広島県ユニセフ協会事務所 中区本川町2-6-11 第7ウエノヤビル5F
- 日 大人380円, シニア(65歳以上)180円*, 高校生180円, 小・中学生 無料
- *健康保険所など年齢確認のできる身分証明書が必要です。
- 日 広島県ユニセフ協会 担当者:高田 和美
- 日 Tel:082-231-8855 mail:unicef-hiroshima_06@theia.ocn.ne.jp

ユニセフ・パネル展 「ユニセフによる戦後日本の子どもたちへの支援」 「ようこそ、チーム・ユニセフへ～スポーツの力を、すべての子どものために～」

第二次大戦後、日本が今につながる自立を目指したユニセフの支援の様子、また、スポーツと遊びの力で子どもたちを支援する様子もご覧いただけます。7月21日(日) 13:30~14:00まで、ピアノとオーボエによるミニコンサートも開催します。

- 日 7月21日(日)~25日(木) 定なし 費 無料
- 日 9:30~22:00 21日は11:00~、25日は15:00まで
- 日 広島県ユニセフ協会事務所 中区本川町2-6-11 第7ウエノヤビル5F
- 日 広島県ユニセフ協会 担当者:高田 和美
- 日 Tel:082-231-8855 mail:unicef-hiroshima_06@theia.ocn.ne.jp



ミャンマースタディーツアー報告会

関西・中四国の生協さんが2016年度から取り組んでいるユニセフ指定募金「ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プロジェクト」が現地でのように役立っているのか、また、ミャンマーの人びとの暮らしやについて話を聞きます。講師は(公財)日本ユニセフ協会の石尾匠さん。

- 日 9月7日(土) 時 13:30~16:00 費 無料 定 100名
- 日 広島県ユニセフ協会事務所 中区本川町2-6-11 第7ウエノヤビル5F
- 日 広島県ユニセフ協会 担当者:高田 和美
- 日 Tel:082-231-8855 mail:unicef-hiroshima_06@theia.ocn.ne.jp

留学生日本語スピーチコンテスト in広島2019

広島で学ぶ留学生による日本語スピーチコンテストです。事前申し込み不要、無料でどなたでも入場できます。皆さまお気軽にご来場ください。

- 日 7月20日(土) 時 13:30~15:40頃
- 日 ひろしま国際センター交流ホール 費 無料 定 100名
- 日 広島キワニスクラブ事務局 担当者:穂下 亜紀子
- 日 Tel:082-227-5315 mail:hkiwanis@crocus.ocn.ne.jp

けん玉deナイと!

廿日市市スポーツセンター(サンチェリー)で開催される第7回ケン玉ワールドカップの予選終了後、海外選手・国内選手多数がけん玉商店街中央のステージに移動し、世界一の超絶凄ワザをお見せします。

- 日 7月20日(土) 時 18:00~(予定) 費 無料
- 日 けん玉商店街(JR廿日市駅~国道2号) 定 延長450mの街一杯までOK
- 日 市民グループええじゃん(Asian) 担当者:栗林(くりばやし)
- 日 Tel:090-6436-0200 mail:kkurisan555@gmail.com

こちらJICAデスク



広島から世界へ! いつか世界を変える力になる!

広島から世界へ!2019年7月中旬より、
広島県出身のJICA海外協力隊3名が世界へ向けて出発します!



■現在赴任中の広島県出身 JICA海外協力隊(名)

区分	男性	女性	合計
青年	17	18	35
シニア	11	1	12
日系青年	1	0	1
日系シニア	0	0	0

2019年4月30日時点

<JICA海外協力隊>

「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい!」という強い意欲を持つ20歳~69歳の日本国籍を持つ方が対象のボランティア事業です。派遣は原則2年間。衣食住を現地の人とともにしながら、互いに理解を深め、同じ目線で途上国の課題解決に取り組みます。また、帰国後も現地での経験を日本の地域や世界の発展に役立てることが期待されています。そんな草の根レベルのボランティアに、あなたも参加してみませんか?!

帰国隊員レポート ~ジブチ篇~

職種:保健師 幅野 由樹子さん



ジブチ共和国
アフリカ北東部に位置する共和国
【概要】面積:23,200平方キロメートル
人口:94.2万人
首都:ジブチ
公用語:アラビア語, フランス語
宗教:主にイスラム教

現地での活動内容

私は州内で唯一の病院であるディキル保健センターで保健師として2年間活動しました。州内全土や隣国エチオピアから毎日多くの患者さんが保健センターにやってきます。多くの患者さんの中で、わたしは主に栄養失調の子供たちの栄養改善のための活動をしていました。母親への授乳指導や子どもたちの体重・体調管理を同僚とともに行いました。また、栄養失調児の栄養改善に効果があるといわれる栄養価の高いモリンガという植物の栽培を行いました。最初なかなかうまくいかなかったモリンガ栽培ですが、地元の小学校に協力を依頼し、小学校の理科の授業の中でモリンガ栽培を取り入れてもらえることになりました。現在も地元の小学5年生の子どもたちがモリンガを育てています。



▲自分たちの手でモリンガを栽培している様子 ▲元気に退院していった子どもとお母さん ▲母子の体調管理、朝の検温

ジブチってこんなところ!

ジブチは日本人にはあまり馴染みがない国かもしれませんが、日本との繋がりは世界で唯一日本の自衛隊の拠点がある国です。そしてジブチは世界一暑いと言われており、最も暑くなる8月頃は最高気温が50℃近くになることもあります。12月頃は比較的涼しくなりますが、年間を通して非常に暑い国です。また、雨があまり降らず、土地が乾燥し、資源に乏しい国です。私はジブチの南西部にあるディキル州の州都ディキル市という町で生活していました。首都からバスで約3時間半かかる場所です。町中ではたくさんのヤギと人々が行き交い、元気いっぱいな子どもたちがたくさんいます。



▲元気いっぱいの子どもたち

ジブチの食事

イスラム教徒が大半であるジブチ人は床へ直に座り、右手で食事をします。ジブチはフランスの植民地であった影響から、主食はフランスパンやパスタです。お米も食べますが、パスタも右手を使って器用に食べますが、私は右手でパスタをうまく食べることがなかなか出来ませんでした。また、イスラム教徒であるジブチ人は豚肉を食べません。私の住んでいた町にはスーパーはないので鶏肉・牛肉・魚は売っておらず、市場ではヤギ肉が売られていました。もう一つ、ジブチ人の特徴として現地の言葉で「シャ」や「シャイ」と言われる、とても甘い紅茶をよく飲みます。町中のいたるところでジブチ人達が集まり、紅茶を飲みながら楽しそうに語り合っている光景をよく見かけました。



▲一般的なジブチ料理

はの幅野 由樹子さんプロフィール

- ・広島県安芸郡府中町出身。
- ・筑波大学で看護学を勉強、その後大学院にて公衆衛生学を学ぶ。卒業後、地方自治体で保健師として勤務。2017年1月~2019年1月までジブチ共和国ディキル州ディキル保健センターにて保健師として活動する。

参加のきっかけ

高校生の頃から国際協力に興味があり、開発途上国の子どもたちの命を守りたいと思っていました。保健師という専門性を活かすことができ、かつ開発途上国の人々と密に関わることが出来ると思い、青年海外協力隊へ参加することにしました。

参加して思うこと

2年間のジブチでの活動は失敗の連続でしたが、失敗の中から多くのことを学びました。置かれていた状況に応じて、発想の転換、柔軟性、宗教・文化・環境・価値観が全く異なる人々と何が共通の目的となり得るのか考える力が鍛えられたように思います。また、決して豊かな生活ではない中でもわたしのことを気遣ってくれるジブチ人達から多くの優しさももらいました。過酷な環境で暮らす遅さ、底抜けの明るさ、そして人を思いやる優しさを持つジブチ人達は私は本当に尊敬しています。彼らから学んだものやもらったたくさんの優しさを忘れず、これから社会へ還元していきたいと思っています。

「グローバルリレーションズ・プログラム (GRP)」参加者の声

HIC article: Putridiah Lupitasariさん (Indonesia)

My name is Pita and I'm registered under the Graduate School of Engineering in Hiroshima University. I'm thankful to have this chance to talk about my life so far as international student who lives in Hiroshima International Plaza (HIP) as a member of the Global Relationship Program (GRP). Here, I met other foreign students from various countries and be able to build connections. We often played sports together or just strolling in the city. I realized that getting to know other international students helped lessening the culture shock that I had upon arriving in Japan for the first time.

Beside of doing my research and taking classes, I often participated in the social project that had been conducted by Hiroshima International Center and JICA, such as the Amazing World Cultural Festival and Tondo festival. There were also lobby events like

Japanese traditional music mini concert and Taiko drum show that I enjoyed a lot. I also learned how to do origami and ikebana. In that project, I was able to interacted with many people and practiced my Japanese skill too. All of the experiences that I got made me feel so grateful to be here.

Not only the program in HIP that is great, the facility is too. There is an audio room where people get to play piano and guitar and a recreation room where people can play billiard and dart. Last but not least, there is a library where people can enjoy books and various magazines. Also there is restaurant here where they serve international food and free shuttle bus as accommodation which is pretty convenience. Therefore I would like to recommend International students to experience living here to easily adapt in Japan.



グローバルリレーションズ・プログラム (GRP)とは?

ひろしま国際プラザに入居して大学に通いながら、国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることを目的とした、外国人留学生のためのプログラムです。現在、11ヶ国17人の留学生が参加しています。

そのほか、レジデントアシスタントの日本人学生2名が入居し、彼らを支援しています。

★入居使用料

1泊770円 管理費2,500円/月
月額24,060円～26,370円
(水道光熱費込み)

★現在、今年秋からの入居者を募集中です。詳しくは「ひろしま国際プラザ」のHPをご覧ください。

(公財)ひろしま国際センター交流ホール等の利用停止のお知らせ

ひろしま国際センターは、交流ホール等の改修工事を行うため、本年7月8日(月)から7月31日(水)の間、交流ホール及びオープンスペースの利用が出来ません。

利用者の皆様には、大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。



交流部&留学生活躍支援センター

〒730-0037
広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F
TEL.(082)541-3777 FAX.(082)243-2001
E-mail/hic@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

月～金 10:00～19:00 土 9:30～18:00
日・祝日および年末年始(12/28～1/4)はお休みです。

研修部 (ひろしま国際プラザ)

〒739-0046
東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL.(082)421-5900 FAX.(082)421-5751
E-mail/hicc@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

(情報センター・図書室・NGO交流室) ※情報センター・図書室は平日
12:30～13:30閉館です。臨時
に閉所する場合は、HPで随時お
知らせします。
月～土 10:30～19:00*
日・祝日および年末年始はお休みです。

